

2017 Wako's

Super Kart Race Report

開催コース／筑波サーキット（茨城県）
主催／日本スーパーカート協会
開催日／8月27日（日） 天候／晴れ
路面状況／ドライ

WAKO'S スーパーカートカップ第6戦



SK1表彰式



SK2表彰式



SK4表彰式

シリーズも終盤戦に突入した第6戦。そろそろタイトルの行方も気になり出す頃だろう。

さて、SK1は保立翔がPPを獲得。決勝でもホールショットも決めてトップを快走するが、それを追うのが予選でエンジンが焼き付き9番グリッドスタートとなった吉野義弘だ。「吉野さんは最終から1コーナーに掛けてが凄い速いの注意していたのですが…」という保立だが、それでも1コーナーで吉野の逆転を許してしまう。吉野はそのままトップでチェッカーを受けた。

SK2では山崎尚樹と藤木章二のトップ争い。「ヘアピンが圧倒的に速かったので自信はあった」という山崎がレース終盤の1コーナーで藤木のインに飛び込み、逆転優勝！



① 予選でエンジンが焼き付いてしまい、突貫工事でシリンダー交換をして決勝に臨んだ吉野。不安は残ったというが、しっかりとトップをゲット。確実に結果を出すあたりはさすがだ ② 筑波シリーズをホームとしている山崎。開幕戦に続いての二つ目の勝ち星を手にした。レース中、最低1度は必ず訪れるであろうチャンスを待ち続け、そこを逃さず攻め込んだという ③ SK4クラスは賣田雅一が参戦。SK1に迫る走りを披露した



2017 文部科学大臣杯 JAPANKART CUP with HDX

開催コース/筑波サーキット (茨城県)
 主催/日本スーパーカート協会
 開催日/8月27日
 天候/晴れ 路面状況/ドライ
 Report&Photo/月刊JAPANIKART



◀総合トップを獲得したYZ125クラスのファクトリークラモチ。「今回の勝利はすべてはチーム監督のおかげです」と2人のドライバーは口を揃えた



▲スポーツカートで参戦するSK-Enjoyクラスに唯一、挑戦している日産横浜自動車大学校。時折、上位マシンに迫るかの様な素晴らしい走りを見せた



▲初参戦となったHDX KT100クラスの大谷レーシング。使用していたマシンは20年以上も前にリリースされたヤマハ製カート

▼HDX-KT100クラスで優勝のTR-ブナン+水曜レーシング! 総合でも4位に入る奮闘!



▲あふれ出るかのようなトルクが魅力のWR250クラス。優勝はADVAN てるてるレーシング



早いものでシリーズも4戦目に突入。残すはSUGO、そして最終戦筑波大会のみとなったジャパンカートカップ。

さて、今回のレースには14チームがエントリーし、HDXクラスでは初参戦のチームも登場。過ぎゆく夏を60分間、楽しんでいった。

総合トップをマークしたのはYZ125クラスに参戦する斎田猛と角田祐次の2人組チーム、ファクトリークラモチだ。

それぞれ前半と後半に担当を分けて臨み、終始快調な走りをキープしつつ49周を走りきる。なお、角田選手は10年のレースキャリアにおいて、今回が初優勝だという。それだけに忘れがたい記憶に残るレースとなったようだ。

総合2位にはWR250クラスのADVAN てるてるレーシング、そして3位はYZ125クラスのカレー茶畑が入った。上位3チームは同一周回数でのフィニッシュで、耐久レースにも関わらず、スプリントレースを彷彿させる接戦を見せた。